

エッセー

立教への伝言

全学共通科目兼任講師／元立教学院職員 牛崎 進

退職後3年続いた全カリ総合系科目「学びの精神」の両キャンパスでの担当を何とか終えた今、ようやく実感をもって「立教」での職員生活を振り返っている。単なる回顧をつづるのははた迷惑なので、立教の今後へ少しでもつながるようまとめた。

図書館専門職として立教大学に就職し、図書館で通算34年、入学センターで約4年、学院管理部門で7年在職した。この45年間はコンピュータと印刷の技術革新、そしてインターネットの爆発的普及に立ち会った年月だったともいえるが、変革の時代をどう読み取って仕事に活かすのか、そして立教大学の取り組みを大学図書館界のモデルにまで持ち上げられるのかを模索しながらの楽しい苦闘だった。その結果は、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの結成、授業内情報検索講習会の開始、そして建設が遅くなったが池袋図書館の開館等につながった。いずれの取り組みも学生支援の向上を期すものとなるのは当然のことだったが、立教のよき伝統が後押ししてくれたことも忘れない。さらにこうした中で私自身を落ち着かせてくれたのは、故郷の詩人宮澤賢治の「世界がぜんたい幸福にならなければ個人の幸福はあり得ない」とのフレーズだった。

次に全カリ3年間のことである。新入生を対象とした導入科目「学びの精神」において「伝統と革新の大学図書館—学びを深めるための情報リテラシー」を担当した。学習を深めるために読書（ネット情報の利用も含め）が大切であること、そのためには大学図書館のよき使い手になる必要があることを講義の主旨としたが、毎回の授業のリアクションペーパーに大学への質問や要望も自由に書いていいと案内した。学生生活への早期定着と立教生であることへの安心感の醸成を狙ったものだった。この質問や要望は多岐多様であり、毎回の講義の冒頭でできるだけ応えるようにした。

特記しておきたいことは、各種オリエンテーションおよび先輩や同級生からの情報を入手して学生生活を概ね無事にスタートさせているだろうとの想定が崩れたことだ。気軽に質問したり要望したりする機会を持てないでいたのだ。もちろん、学生本人の不注意で知らないでいたこともあったが、例えばRIKKYO SPIRIT（学生向けポータルサイト）でのデジタル案内だけでなく、希望者は紙媒体のマニュアル等も窓口で受け取れるようにするなどオリエンテーションを補強するとか、総合案内の窓口を指定するなどの改善が必要なものに感じた。長く職員をしていると、大学の事情に精通するようになり大学の風景を俯瞰して見がちになるが、そこに落とし穴もある。学生目線に立って身近に改善工夫できることも少なくないのだ。忘れてはならないことは、学生たちに立教体験を提供できるのは4年間だという、しごく当たり前のことだ。その間に大学が何事が改善したり、新たなサービスを始めたりすることで、学生たちは大学の意図を具体的

に受けとめることができるからだ。長期計画の立案も大切なことだが、学生たちへの4年刻みの視点も意識し続けたいことだ。

また講義前後の学習時間の確保については、学生の自主性に委ねるだけでは不十分で、毎回のように課題を出して、自ら調べ考える習慣を付けさせることも欠かせないと反省した。今後とも図書館の各種の情報検索講習と講義との連携も強化されるべきものだと強調しておきたい。学生支援の伝統ある立教ならではの取り組みになっていくことを切望してやまない。

最後に職員管理職としての振り返りである。ずいぶん前から業務の非専任化や外部委託が進んでいる。窓口の多くで委託スタッフによって通常の対応がなされている。私自身も図書館の委託化を推進したが、望ましい委託化は、単に人件費の圧縮を目指すのではなく、専任と非専任（業者）との良好かつ持続的な協力により、利用者サービスを向上させ業務を安定化させることだと確信していた。生き残れないような大学が委託化に奔走することはあるだろうが、立教ではあり得ず、人を大事にする立教の伝統にも反しているとの思いだった。そのために財務当局との交渉や立教企画への働きかけをしたりもした。確かに専任職員が現在の給与条件を見直すことなく、非専任スタッフに少しでも安定して働ける環境を用意することは容易ではなかった。しかし、ここでも賢治のフレーズを応用し、立教での局地戦（？）に埋没せず、大学図書館関連の雑誌への寄稿やNPO 法人大学図書館支援機構の立ち上げに関わり、主張したいことは広く訴えることもした。委託化をめぐる職員皆さんの試行は今後も続くだろうが、つまるところ、学生支援の見地から立教大学の諸サービスをどのようなレベルにするのかということに尽きるように思う。難問に挑戦することの苦労と達成感をぜひ味わってほしい。学生たちにも、何かに迷ったら留まることを選ぶのではなく、行動を起こすことで得られる学びを体感してほしいと言ったことを思い起こしている。

これからも新聞やネットで「立教」が気になることは続く。最近のトピックスは駅伝の復活と「RJK」のようだが、戦略と実践を担う教職員のいっそうの働きに期待しつつ、学生たちへのサービス改善という地道な取り組みもしていただけるよう併せて念願してむすびとする。

うしぎき すすむ